

着実な道路ネットワーク整備で暮らしを豊かにします

国民生活を豊かにし、経済活動を支える重要な社会資本である高速道路。いまや日々の暮らしになくてはならない存在です。道路整備は、輸送コストを下げ、交通事故を減らすなどの直接的メリットだけでなく、バランスのとれた地域社会の発展をもたらします。私たちは道路整備を担当する会社として、真に必要な道路ネットワークを計画的かつ着実に整備していくという使命をしっかりと果たします。

高速道路ネットワークの整備

NEXCO西日本は、高速道路ネットワークで各地域をつなぐことにより、地域間の連携に貢献しています。高速道路ネットワークを整備することは、自動車交通の混雑緩和や、地域間の交流・連携の強化につながります。現在、高速道路機構と締結した協定に基づき、高速道路ネットワークの整備促進に努めています。

2007年度から2010年度までの開通予定延長は107kmで、2009年度には山陰自動車道、第二京阪道路および佐世保道路の3道路33kmの開通を目指し、事業推進を図っています。

2007～2010年度 開通予定区間

年度	開通区間	累計開通延長
2007年度	阪和道 みなべ～南紀田辺 新名神 甲賀土山～草津田上IC 第二京阪 阪高接続部～巨椋池	35km (33%)
2008年度	東九州道 津久見～佐伯	48km (45%)
2009年度	山陰道 斐川～出雲 第二京阪 枚方東～門真JCT 佐世保道路 佐世保～佐世保みなと	81km (76%)
2010年度	東九州道 門川～日向 東九州道 高鍋～西都	107km (100%)

既存ネットワークの機能向上

4車線化事業の展開

4車線化により、交通集中による渋滞が解消し、観光地などへのアクセスのしやすさが向上するとともに、制限速度上げや上下線分離構造となることから、快適性や安全性が向上し、対面通行に比べて円滑な走行が可能になります。2010年度までに、高知自動車道、岡山自動車道の3区間21kmの完成を目指し、事業の全面展開および進捗を図っています。2008年度は高知自動車道の2区間16kmが4車線化され、川之江ジャンクション～高知インターチェンジまでがすべて4車線化されました。



スマートICの導入

高速道路の利便性を向上するため、スマートインターチェンジ(IC)の整備を進めています。スマートICとは、ETC専用の簡易なインターチェンジのことで、ETCカードを持っている車両以外は出入りすることができません。スマートICを設置することで、既存の高速道路を積極的に活用できるようになり、2009年4月1日までに11カ所の本格導入を実施しています。

お客さまの利便性向上

東九州自動車道(津久見IC～佐伯ICの開通(2008年6月28日))

ネットワークの拡充

大分県南地域が高速道路で結ばれ、九州縦貫・横断自動車道とともに広域的なネットワークを形成し、アクセス向上が図られます。

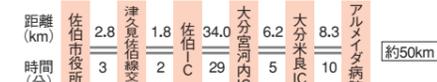
救急医療体制の強化

大分県南地域からの搬送時間が短縮され、救急医療活動への貢献が期待されます。

■一般道路利用(国道10号)



■高速道路利用



※ 経路:佐伯市消防本部にヤリダ



※ 佐伯市内から大分市内(第三次医療施設:アルメイダ病院(約50km)間では、高速道路を利用すると国道10号利用時と比較して時間で約25分短縮となります。

チャレンジ大分国体

2008年度開催の大分国体等(第63回国民体育大会【9/27～10/7】、第8回全国障害者スポーツ大会【10/11～13】)において、県南地域の競技会場までの選手・大会関係者および応援関係者の円滑な移動に貢献しました。

地域への還元

東九州自動車道(津久見IC～佐伯IC)の開通にあたっては、地域の皆さまのご理解、ご協力により、当初計画より早期に開通することができました。これに伴い、早期開通による増収分の一部を事業に協力いただきました地元地域の皆さまに還元し、さらなる高速道路の利用促進を図ることを目的に「早期開通割引」を実施しました。

道路の耐久性向上

NEXCO西日本では、高品質で耐久性に優れた高速道路をより経済的に、また、安全・確実に建設するため、品質管理マネージャーを配置し、工事管理体制を強化するとともに、道路の耐久性を向上させることを目的とした施策を推進しています。



品質管理実施状況

東九州自動車道の建設に携わって

開通が近づくにつれ、さまざまな現場見学会や沿線の自治体が主催するイベントが実施されました。見学会の説明に熱心に耳を傾けている地元住民の方の姿や、開通イベントの地元の盛り上がりを通して、高速道路開通に対する関心の高さ、地域活性化への期待の大きさを実感しました。

開通後1年間の整備効果によると、救命救急体制の強化をはじめ観光施設の入場者数の増加、企業の新たな進出などが期待されており、高速道路ネットワークの整備が果たす役割の大きさを改めて感じています。



関西支社
福知山高速道路事務所
小浜事業所
舗装工事長
(元九州支社大分工事
事務所工務課長)
井秀和

地域とともに大規模災害に備えます

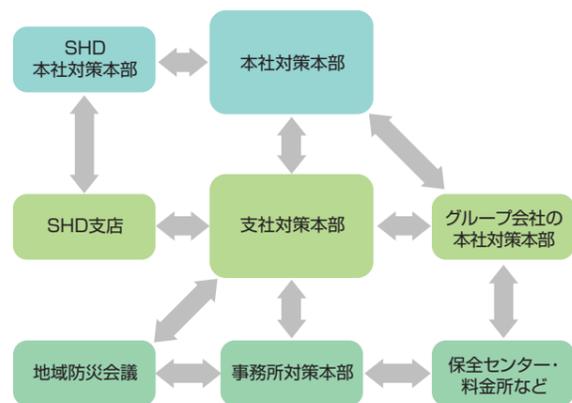
高速道路は、自動車輸送を支えるという平常時の役割だけではなく、ひとたび大規模災害が発生した際にも頼れるライフラインであり続ける必要があります。これまでも、大規模災害発生時にその復興に対してしっかり役割を果たしてきました。私たちは道路を支えるプロとして、さらに防災体制の充実に努めます。

防災体制

NEXCO西日本グループでは、過去に経験したことのないような地震や自然災害が発生した場合にも、道路機能を可能な限り迅速に回復し、安全・安心な道路空間を提供することを目的とした防災体制の構築を目指しています。

特に西日本地域の災害特性として、内陸直下型地震や集中豪雨などへの備えが必要となるため、過去の災害事例を精査し、最新の知見に基づく磐石な体制づくりを進めています。

災害が発生した場合や、災害が発生する恐れがある場合は、その災害事象の規模に応じて「非常災害対策本部」を設置し、グループが総力を挙げて災害応急対策活動にあたります。



地域防災会議への参画

地震などの有事の際には、近隣自治体との連携が不可欠となります。NEXCO西日本では、高速道路沿線の地元自治体に設置されている地域防災会議に順次加入し、連絡体制などを確立するとともに、より密接な相互協力体制の構築を図っています（現在291会議中、102会議に加入）。

地域防災会議加入状況（2009年3月現在）

加入状況	加入済	未加入	計
会議数	102	189	291

防災訓練の実施

地震や自然災害などが実際に起こった場合、防災体制の下に迅速かつ的確に対応できることを目指し、グループ全体で訓練を実施しています。

内陸直下型地震など各種災害を想定した訓練や連絡体制の再確認、非常体制の円滑な運営を図るため実践的、効果的な訓練を行い、防災体制の問題点抽出とその実効性を検証しています。

また、防災週間、道路防災週間の期間中は、ポスターの掲示、小冊子の配布、「防災週間」および「防災の日」の広報を行い、防災意識の高揚と普及に努めています。



防災訓練



大規模事故を想定した訓練

防災資機材備蓄の実施

災害発生時における応急復旧や復旧作業の際には、高速道路などの交通確保に必要な交通規制材や土のうなどの資機材を速やかに確保する必要があります。NEXCO西日本グループでは、各事務所の防災業務実施規則に基づき、防災上必要な資機材を備蓄しています。また、災害発生時に協力していただく応援会社を確保、応援会社の保有する資機材や搬送方法などの把握に努めています。

地域と一体となり活性化支援と協働を促進します

NEXCO西日本グループは、地域と密着した社会資本である高速道路を担う企業としてステークホルダーの信頼構築のためにさまざまな経営資源を活用した取り組みを進めています。高速道路沿線地域を中心に幅広い活性化支援や連携・協働の取り組みを推進しています。喜んでいただける皆さまの笑顔が、私たちの励みです。

出張講座（教育支援）の実施

NEXCO西日本グループでは、子どもたちの教育支援も重要な課題ととらえ、積極的に取り組んでいます。例えば、管理事務所の施設を社会科の教育材料に活用していただくよう提供し、教育のお手伝いをしています。米子管理事務所では、高速道路やその維持管理が社会に果たす役割を学んでもらいました。



出張講座の様子

高速道路施設の沿線地域との一体利用

高速道路施設を沿道住民の方々と一緒に維持管理することにより、地域の皆さまにもメリットを享受していただくという取り組みを関係者の力をお借りして始めています。大分自動車道では、沿線の雄大な景観と調和できるよう大分森林組合が提唱する「山桜日本一の里づくり」事業とタイアップし、高速道路の盛土のり面の維持管理を関係者と協働で実施しています。樹種の選定においても関係者の皆さまと協議させていただくなど地域景観との調和を実現し、地域の皆さまの声を生かした道路管理にもなっています。



地域住民と一体となって盛土のり面を維持管理

地域の清掃活動への積極的な参加

西日本各地にあるNEXCO西日本グループの各出先機関では、地域の清掃活動にも積極的に参加しています。例えば、西日本高速道路サービス・ホールディングス（株）広島支店の社員が「平和記念公園の一斉清掃」に参加しました。この取り組みは、原爆記念日の平和式典に先立ち2,000人以上が参加して行われたもので、当社グループ社員も美化の推進とともに地域との連携を図っています。



平和記念公園の一斉清掃に参加

地域イベントを通じた協働による活性化支援・交流促進

高速道路は地域に密着した国民の日々の暮らしを支える公共資本です。この高速道路を事業の中心に据える企業として、沿線地域にお住まいの皆さまと良好な関係を築くことは極めて重要なことと考えています。

2008年10月中旬に愛媛県新居浜市の「新居浜太鼓祭」が開催された際には、その玄関口といえる松山自動車道 新居浜料金所や近隣の料金所において、西日本高速道路サービス 四国(株)の社員が地元新居浜市等と連携を図り、市から提供を受けたノボリ、提灯、祭りばやしのBGM、各種ポスター、周辺案内図などさまざまなツールを活用して飾りつけを行ったり、スタッフもハッピーを着用して業務にあたるなど、雰囲気盛り上げのお手伝いをしました。NEXCO西日本グループは今後も地域の皆さまとの連携・協働をさらに深めて参ります。



地域の玄関口として笑顔で応対



ハッピーを着て地域の祭りを応援